

・ 94年地理学教室の行事記録	1
・ 卒業論文公開口頭試験について	1
・ 3年生巡検報告	2
・ 特別寄稿：プータン王国見聞録	4
・ 国土館大学図書館にあるパソコン用ソフトの一覧	6

【94年地理学教室の行事記録】

- 2月7～8日 国土館大学地理学会冬季巡検（筑波研究学園都市 国土地理院、国立科学博物館実験植物園、宇宙開発事業団筑波宇宙センター、地質調査所地質標本館）
- 2月16～18日 平成5年度 卒業論文公開口頭試験
- 5月25～26日 1年生巡検（埼玉県寄居町：長島、瀬戸、野口、長谷川、内田）
- 6月28日 国土館大学地理学会（於世田谷キャンパス）
《講演会》長島弘道「マニラ・ケソン9日間」
《就職ガイダンス》三枝茂氏（92年卒、極地研大学院博士課程）
門井浩氏（88年卒 茨城県立守谷高校教諭）
- 6月3日 9月卒業公開口頭試験
- 6月11日 国土館大学地理学会巡検（高尾山で植生観察：水野一晴先生、増沢直先生）
- 6月26日 国土館大学地理学会巡検（江戸東京ワンダーゾーンを歩く：内田）
- 9月11～13日 国土館大学地理学会夏季巡検（釜石市：長島）
- 10月17～20日 3年生巡検（新潟市：長島、長野市：瀬戸、秩父市：野口、福島県会津田島町：長谷川、佐渡島：内田）
- 12月5～6日 2年生巡検（東京湾岸：長島、上野原・甲府盆地：瀬戸、伊豆：内田、霧ヶ峰：野口、長谷川）
- 12月17日 国土館大学地理学会（於世田谷キャンパス）
《講演会》高木正先生「アバルトヘイト後の南アフリカ共和国の生活」
《ゼミ発表》白井英明、白男川里子、窪木俊夫、石井崇伸、榊原清史

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して可否を決めています。今年度も2月13～15日に卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。公開試験なので1～3年生も出席し、今後の参考にしたほうがよいでしょう。なお、3年生は全員出席が義務づけられています。

試験は、持ち時間10～15分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジユメを用意し、出席者全員に配布できるよう準備してください。レジユメには当然のことですが、表題・日付け・発表者名・図表番号などを明記してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピーは必ず持参してください。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

重要事項！必ず読むこと！

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（1月初旬）に必ず返却して下さい。未返却者は、口頭試験が受けられません。

【3年生巡検報告】

長島ゼミ in Niigata

寺嶋 哲也

私達、長島ゼミ一行25人は、新潟市およびその周辺で3泊4日の巡検を行いました。新潟ということで、小泉今日子のCMでおなじみの“Max”に乗り込み新潟入りしました。ちなみに席は1階だったので、景色はほとんど見られなかった。

新潟においては、各自の設定したテーマに基づき調査をしました。市役所に行く人、県庁に行く人、図書館に行く人、現地調査を行う人とさまざまでした。図書館、県庁の資料室では文献などをコピーするため、莫大(?)なお金を新潟市に納めた人も多かったようです。夜は宿舎での食事のあと、テーマごとに2つのグループに分かれミーティングが行われました。窓の外ではのみ屋などのネオンが輝き、ミーティングの部屋とは別世界でした。ミーティングでは、その日の調査結果を報告していくのですが、長島先生からの鋭いつっこみを受け悪戦苦闘する人も多く、かなりハードなものでした。

2日目・3日も調査、ミーティングの繰り返しでしたが、3日目のミーティングでは長島先生の鋭いつっこみもあまりなく、最後の全体ミーティングも終始和やかな雰囲気で行われました。このまま先生を囲み、ビールでも飲みながらみんなで打ち上げをしたかったのですが、長島ゼミは禁酒のため実行できませんでした。

最終日はあいにく雨でしたが、午後3時に解散し、笹だんごや地酒をおみやげに家路につきました。中には調査が終わらず、新潟にもう1泊するとう大変な人もいたみたいですが、巡検は無事に終了しました。

最後に巡検とは関係ありませんが、なぜ地理学科には巡検だけで、他学部とおなじようなゼミ旅行がないのでしょうか。あってもいいと思うのですが……。

瀬戸ゼミ巡検報告 —長野県長野市を拠点として—

有坂 佳代子

瀬戸ゼミ13名は長野市を本拠地として巡検が行われた。全体で調査し考察する1、2年とは異なり、自ら独自の調査を進めていかなければならない点には皆、悪戦苦闘していた。時間もおおよそ3日間与えられた訳であるが、アポイントをとったり、早朝からカウンティングに出掛けたりと各個人調査内容はどうであれ、足で稼いだ巡検だったようである。

オリンピックが1998年に控えているが、これに直接関係のある調査をした人はいなかったが、この開催が及ぼす影響は、少なからずとも他の巡検調査にも響いてきたのではないかと思う。

実際に、至るところにオリンピックの開催をしめすものや、幹線道路の現場、建築・改築予定の建設現場が目についた。

それでは、ここで瀬戸ゼミ生全員の調査内容を報告したいと思う。

<善光寺関係>

- ・善光寺の街路の交通規制—辰井公二
- ・善光寺周辺における景観問題—古川圭
- ・善光寺周辺における宿泊施設の立地と推移—有坂佳代子

<都市の諸問題>

- ・長野市北部の団地開発について—古川俊成
- ・長野市主要道路の景観について—斉藤康広
- ・地方都市における自転車問題—仲井正和
- ・傾斜地における住宅団地の形成について—窪木俊夫
- ・長野駅周辺第一土地区画整理事業について—草間祐輔
- ・長野市における周辺道路の整備状況について—土屋宗一

<防災(河川)>

- ・長野県浅川ダム建設における諸問題—村松良幸
- ・千曲川の洪水—過去の洪水と排水機場—吉野幸広

<観光>

- ・長野県飯綱高原における景観の変遷—中林豪

<農業>

- ・長野県北信地方における果樹栽培の現況—下高井郡小布施町を中心として—村上誠

ゼミ中の意見交換の場では、長野から抱いたイメージは『思っていたより良かった。』という声が多くあつた。がしかし、いまいち県都であるのにも拘らず活気がないように思えた。これは、巡検4日目の早朝に目にした現場からその理由らしきものが浮かび上がった。

それは、善光寺で早朝に行われるお朝事にゼミ員4人で参加した時の事である。周辺にいたのは、年配層ばかり

り。そういえば、長野に来て街で会うのはご老人ばかりなのを思い出した。偏見になるが、長野市は善光寺に訪れるご年配層のご老人と市民が町中を歩いている位であると思った。オリンピック開催を機にもっと長野が活性化された街になればいいと思う。ことさら、冬になればスキーに訪れる若年層で街が溢れるのかもしれないが…。

野口ゼミ秩父巡検報告

加藤 慎一

私たち野口ゼミの学生17名は、10月17日から3泊4日、埼玉県秩父市で巡検を行いました。

まず1日目は秩父測候所を訪れ、測候所の仕事内容や観測機器などの説明を受けました。そして、その日の夜に1回目の気温観測を行い、2日目・3日目は早朝5時からの気温観測となりました。

昼間は4つの班に分かれて、ヒートアイランドが形成する要因についての調査を行いました。各班の調査内容は次の通りです。

1班：人工の経年推移および人口密集度の調査、分布図作成

2班：建物の高さ・密度・材質の分布図

3班：工場などの熱源の分布、地形など気温分布に与える特殊な要因があるかどうかの確認

4班：都市および郊外の緑地・植生の分布図、現在の土地利用図と土地利用の変化・推移、不透水面（コンクリート・アスファルトなど）の分布

夕方、ホテルに戻って食事をした後は、会議室がとれなかったので、部屋の中でミーティングが行われました。

最終日は、気温観測がなかったため、班ごとの調査だけとなりました。集められた資料は、班で整理し、まとめたものを後日全員に配布し、レポートを各時の参考資料となりました。

以上が巡検の大まかな内容です。今回の巡検は、1・2年の時よりも長く苦しいものとなりましたが、大きな成果も得られたと思います。

長谷川ゼミ巡検・福島県会津田島町にて

青木 美和

会津田島の巡検は、実は私にとっては2回目なのだが、前の巡検の経験はほとんど役に立たなかった。これと全く同じ立場の人が某N氏なのだが、彼は植生の班であったので多少役に立ったことがあったかもしれない。

長谷川ゼミ（3年）は11名いて、多い順に地形・地質班(5)、水質班(3)、リモートセンシング班(2)、植生班(1)という構成となっている。これらの班の活動内容をおおまかに見ると、といっても他の班のことは詳しく知らないのだが…。

地形・地質班：よく発達した河岸段丘の地形分類や堆積物の調査。

水質班：湿原やそこから流出する河川の水質調査。

リモセン班：分光反射特性の測定と土地被覆調査の基礎データの収集。

植生班：スキー場の植生の分布・特徴の調査。

ちなみに私は地形・地質班なのだが、今回の巡検の準備を始めるにあたって何が最も大変かと言うと、これから書かなければならないレポートは当然として、「何に着目して調査するか」ということであつた。これがなかなかみつからず、結局数か月もみんなで悩み続けたのである。また、ゼミ内で一番人数が多いということも災いして、意見や連絡が円滑に進まない。しかも班長（実は私らしい）がしっかりしていない、という三嫌みもどきの状態が続き、先生のお怒りをかう結果となった。

こうした過程を経て私たちに分かったことは、分からないことはそのままにするな、といったようなことである。まず調べて、さらに調べて、分からない箇所は方法を仰ぎ、さらに自分で考える…。こういった行程が思いのほか難しいということをしみじみと実感してしまったのであつた。そうして、

「果たして卒論が書けるだろうか…。」

と、誰もが一層不安にかられて立ち直れなかったというのが、巡検の一連の流れなのである。

僕の細道

茂木真佐美（内田ゼミ）

内田ゼミ何でもありで実はなし 中身は自分で作るものです

先生は学会帰り 佐渡一周島内観光尽きぬ体力

両津市のおばさん相手に藤崎君 悪戦苦闘七転八倒

佐渡の町小学生に目がくらみ6日もいたのは石井崇伸

島内の役所巡りの木沢君 地図を求めて水の旅人

この部屋に生出君はいませんか はるか横浜電話がはいる

先生とローカル談義で盛り上がる 宮田君は三重県の人

おばちゃんにわかめを買わされ鈴木君 何でも知ってるクイズ研だよ

両津市の学芸員はかっこいい 好みのタイプ実はコブ付き
聞くと下戸が四人にザル2人 丁度良いのは我一人かな
泊まる宿ドンドン山のてっぺんで 景色はいいが夜は缶詰
くりごはんまつたけごはんが交替の朝食サービス大佐渡ロッジ
この海老は冷凍だねとけちつける〇〇の隣で食べる朝飯
巡検よ早く終われと新潟の海を見つめて友の身思う
両津市でただ一軒はマックスのファーストフード ポテトしょっぱい
かき閉まりする必要のない佐渡の人 アンケートにはちょっと困るね
北小浦・藻浦・鷺崎・外海府 私が行った土地の名前よ
4日間佐渡はとつても寒かった 戻れば東京寒波の迎え
ラーメンにつられ原稿書かされる 一升つける越之寒梅
佐渡島 ああ佐渡島 佐渡島

★ ★ ★ ★ ★ ★

【特別寄稿】

ブータン王国見聞録

瀬戸 玲子

1994年3月22日～30日、ブータンを訪れた。バンコクから、たった2機しかないブータン国営ドルック航空に乗換えると、小さなジェット機は赤褐色の地肌のみえる松の疎林の谷の中を飛んで、パロの国際空港に着く。

ブータンはヒマラヤ山脈東南部にあるが、チョモラリ(7314m)の真っ白なピークをティンブーでちらりと見たほかは、ネパールのポカラでアンナプルナを間近に見たようにヒマラヤの高峰をみるができなかった。ブータンではチベット國境から南流する川がいくつも並んでウオン・チュー(川)、マナス・チューに合流し、ジャムナ川からベンガル灣に注ぐ。これらの川の合流点や谷底平野に都市(町)が立地する。今回訪れたパロ、首都ティンブー、プナカ、ウオンディホドンはブータン西部の中央に東西に並んでいる。

大きな川沿いには数段の河岸段丘が発達し、山麓の扇状地が段丘化している所もあり、隆起運動が漸進的に行われたことを示している。川の水は清れつ、雪解け水で水量は豊かで、電力をインドに輸出しているという。パロチューなどは河原が広く、中州をつくり、網状流路をなす。護岸があり、水制が並列、洪水で礫を押し出すことを推察させる。

植生は変化に富む。パロとティンブーを結ぶ国道1号線は、支流の谷に沿い、ヘアピンカーブで峠越えしてゆく。ドチュ・ラ(峠)は3,116mもあるが、高木が林立し、とろろこぶのようなさるおがさがらがり、雲霧林の様相である。松は10～20cmもある松傘をいっぱいつけている。常緑広葉(照葉)樹林、落葉広葉樹林の高木林に、真っ赤なしゃくなげや白い小花を着けたちんちようげの灌木がみられる。ドチュラプナカでは照葉樹の密林が見事で、赤、時には白の高木のしゃくなげが点在している。ティンブーからタクツァン僧院展望台まで2時間かけて登ったが、登り口の2,400m付近は苔むした石が林床にある高木林で、樹木のない湿地には淡紫の桜草が自生している。稜線に出、2,900mの展望台付近でも松や常緑広葉樹にさるおがさがらがり、真っ赤なしゃくなげの灌木がある。西南日本と同じ照葉樹林帯といっても、樹高や樹冠の密度が全然違う。

しかし、谷底平野の両側斜面は樹木がまばらで、短い草や裸地の所もあって乾燥気候の様相をみせている。プナカやウオンディホドンは標高1,350m位で暖かく農家の庭にはバナナが植えられ、道ばたや川辺の崖にはうちわサボテンが生えている。ブータンでは亜熱帯～温帯植生の標高による垂直変化がみられ、高地の多雨林、雲霧林、一方で谷底平野の谷壁斜面の乾燥谷の植生というように多様で複雑な植生分布がみられる。

パロチューやティンブーチューの谷底平野は水田である。気温と降水量から水稻栽培が可能なのに平地が少ないので、山麓や段丘の緩斜面まで小さく区画され手入れのゆきとどいた見事な階段耕作の水田になっている。標高2,500mの高所にまで水田がある。水田にならないほどの傾斜地は小麦、小麦、とうもろこし、そば、じゃがいも、アスパラその他の野菜、またりんご、みかんなどの畑となっている。

集落は斜面に塊状に立地している。農家は木造の3階建て、切妻で、1階は家畜小屋と飼料置場、2階は居間、食堂、台所、仏間、寝室で四角い窓が並んでいる。3階は屋根裏で梯子をかけて上り、穀物、干肉、糞、道具を置く倉庫となっている。便所は2階から突き出して造っており、家畜の餌になる。風呂はなく、湯をわかして使う。屋根裏は吹き抜けで板葺き石置き屋根である。南に開いた谷筋は風が強いことを物語る。最近ではトタン屋根が多くなったという。白い壁は竹を組み、刻んだ糞を土に混ぜ塗り込めたものである。見学した農家は13室あり、9人が住んでいた。ボンチューという竹で編んだ盆ざるにいれた煎った種子や地酒でもてなされた

首都ティンブーはティンブーチューの谷底平野、標高2,300mにあり、人口65,000人。北端にタシチョンがある。立派な建物は釘を1本も使わない木組みで、白い壁、赤い屋根、黒の色どりで装飾をつけている。行政府と僧院が広い敷地に一緒に入っていて、国王は毎日ここで勤務し、ブータン仏教界の頂点に立つジェイ・ケンボ

(大僧正)と2,000人の僧が修行している。彼らは冬には標高1,350mの暖かいブナカへ移る。

唯一の国際空港のあるパロは標高2,500mにあり、人口40,000人。パロチューの谷底平野にある。パロゾンはパロチューを隔てた対岸の丘の上であり、さらに高い所にタゾン(現在国立博物館)がある。ティンブーやパロの市街地は、中央のメインストリートに沿って2階建ての間口の広い商店が並んだ路村のような町である。街並み保存をしていて、ブータンの伝統的な木組みに白い壁、赤、黒、黄色のモザイクで飾られた入り口や窓枠、軒下の飾りや竹皮の編み目が美しい。

ブナカゾンはポ(男)チューとモ(女)チューの合流点の中州の先端に建っていて、橋で渡って行く。ウオンディホドンゾンは標高1,350m、サンコシチューの河岸段丘上の縁に建っている。ゾンはかつて城塞であった。パロの近くにあるドゥゲゾンは、1951年バターランプの火で消失し廃墟と化しているが、眺望のよい崖の上であり、チベット方面への交通の要所であった。ティンブー近くにあるシムトカゾンも支流に臨んだ斜面の上であり、ゾンカ語の教師養成の寄宿制の専門学校になっている。パロのタゾンも見晴らしのよい山の上にあるが、かつては望楼、出城だった。

国王と大僧正が国民の崇拜を受け、僧侶が尊敬され、至るところに仏教が顔を出す。聖地タクツァン僧院は、標高3,100mの山の、比高900mもある露岩の絶壁に築かれている。ヒマラヤ地方に仏教を広めたパドマ・サンババが虎の背に乗ってチベットから飛んで来た伝説にちなんで名づけられた。パロの国立博物館やティンブーの前国王記念仏塔におさめられている数多くの仏像は日本では全くみられない類のもので、頭蓋骨を額に並べ、何本も腕を伸ばし、恐ろしい形相をしたふん怒尊、歡喜仏(男女合体尊)など、おどろおどろした仏像である。ラカン(寺院)のほか、チョルテン(仏塔)が川の合流点、峠、道の出会いにあり、ダルシン、ルンタ、ハダといった経文旗がはためく。

チベット密教を信奉する仏教徒にとって最大の行事はツェチュのお祭である。パドマ・サンババの伝説に結びついたもので、年1度5日にわたってパロでは春に、ティンブーやウオンディホドンでは秋に行われる。パロではパロゾンのあるデヤンカ広場に、近郷近在から晴れ着姿で集まり、周りや斜面に陣どって広場で練り広げられる踊りを鑑賞する。仮面をかぶり、派手な衣装をつけ、打楽器を伴うものもあるはげしい踊りチャム(仮面舞踊)、巨大なはりぼての閻魔大王の地獄裁判の仮面劇などが演じられる。合間に、閻魔大王の前に善男善女が向いてひれ伏し、寄進をする。観衆は昼になると家族で弁当を広げる。ボンチューに入れた赤米を、皆で指先で握っては、焼いた鳥肉などをおかずにと食べている。露天市も賑やかである。祭の最終日の未明にはトンドル(軸装大仏画)の御開帳がある。3階の建物の正面にそろそろと引き上げられると、大きなパドマ・サンババを真ん中に、チベットとネパールの2人の后、8人の化身、2人の高僧の絵が現れ、人々は列をなしてお祈りし、寄進してポー(男根)で頭を叩いてもらう。夜明けと共にトンドルは巻き込まれ、再びゾんに格納される。

ツェチュには大勢の人が最高のおしゃれをしてるので民族衣装の展覧会となる。ブータンでは子供以外は民族衣装の着用が義務づけられている。男はゴという丹前のような着物にケラ(帯)を締め、白い禰神の袖口をみせ、箱ひだをとって膝上丈とし、長靴下をはく。肩には白いカムニという布をかけている。女はウオンジュ(禰神)いキラ(着物)を着てケラ(帯)を締め、短いテゴ(羽織)を着る。キラは1枚布を巻き付けて着るので、衿元にコマ(銀のプローチ)で留める。おおぶりの赤いさんごなどのネックレスをつけ、肩にラチューという細長い布をかけている。日焼けした顔に黒い髪の娘たち、しかし足元のおしゃれはあまりない。

キラは手織で、壁にボンタをくくりつけ、経糸をかけ、腰の後ろにあてた板で糸を張って色糸を通しながら織る。絹の色糸を使った複雑な幾何模様など1日に数十cmしか織れない高級品から、木綿の綿に簡単な模様を織り込んだものまで値段の開きがある。最近ではインドから化織の機械織りの安いものが輸入されている。

日本の明治時代のような、鎖国していたブータンが開国したのは1974年、年間3,000人の観光客を受け入れているが、今後どのように変化してゆくであろうか。

原稿募集のお知らせ

ニュースレターでは、紙面拡充のため、学生・OB・教員を問わず広く読者の皆さまからの原稿を募集しています。評論・随想・旅行記・俳句・雑文などジャンルは問いません。地理学教室の構成員を対象に自分のことばや考えを述べてみませんか? 投稿を希望される方は原稿(一太郎形式のFD)を地理学教室の内田までお送り下さい。採用されたぶんは次回ニュースレターに掲載いたします(ただし謝礼金などは一切ございませんので、あしからず)。ふるってご応募をお待ちしております。 編集部

【教室にあるパソコン用ソフト一覧】

※これらのソフトは学生も原則として使うことができます。詳細は教員に尋ねてください。

▼PC98用、DOS/V用ソフト

WINDOWS V. 3. 1 (OS)
日本語MS-DOS (Ver 3. 3B) 基本機能セット
日本語MS-DOS (Ver 3. 3C) 基本機能セット
日本語MS-DOS (Ver 3. 3D) 基本機能セット
日本語MS-DOS (Ver 5. 0) 基本機能セット
一太郎 Ver. 5 (日本語ワープロ)
WORD V. 5. 0 (日本語ワープロ)
WORD V. 6. 0 (日本語ワープロ)
WXII+ DOS/V版 (日本語FEP)
dBASEIIIPLUS (日本語データベース)
Access (日本語データベース)
花子プロッタ出力ツール
JUSE-QCAS (品質管理支援システム)
GDAS (グラフによるデータ解析)
Thirty (3次元パーソナルCADソフト)
VZ Editor DOS/Vバージョン (テキストファイル用スクリーンエディタ)
1-2-3用V-Textドライバ
縮小名人 (縮小印刷プログラム)
地図をください (多機能世界地図システム)
地理学文献目録第9集 (1987-91)
「地理」総索引 1-36
滋賀県環境アトラス
花子部品ライブラリ「マップ東日本」
花子部品ライブラリ「マップ西日本」
FDマップ (国土数値情報ファイル)
リモートセンシング (OM-SAT)
ひまわり受信処理
ノア受信処理
数値地図表示・閲覧ソフトウェア
ドキュメント・トーカ (校正用ソフト)

▼XYプロッター用ソフト・デジタイザ用ソフト・データロガー用ソフト

TRACE (マイタブレット応用ソフトウェア)
CRD1 (マイタブレット応用プログラム)
TDG1 (3次元グラフパッケージ)
BGP2 (ビジネスグラフパッケージ)
TECG1 (テクニカルグラフパッケージ)
MEAS1 (図形計測プログラム)

※このほかに教員が所有するソフトがあります。個別にあたってください。